

大好きな御前崎を離れ



下村いくみ 29歳
静岡県 御前崎市出身
元電力系会社勤務

きっかけ

大学を卒業しそのまま就職した私は、地元の会社に6年間

つとめていました。その間、大好きな地元のキャンペーンガールとして東京、大阪、名古屋、山梨、千葉、長野などへPRに回ったり、他の町でも茶娘としてイベントに参加するなどしていましたが、それ以外は毎日の家と会社との往復。“このままでいいのかわ” “何か変えたい” という自問自答の日々の結果、思い切って会社を辞め、ニュージーランドへの渡航を決意しました。それから約半年。やっと思いが実現し、ニュージーランドに着いたものの、最初から語学学校にいくつもりがなかった私は“さて、これからどうしよう...” となってしまったのです。大抵ワーホリの人は最初に語学学校へ通い、それからアルバイトをしたり旅行に行ったりするので、語学学校に通っている間、たくさんの情報も手に入るし友達もできます。しかし当時私は、いきなり働いてしまった方が英語力が身につくのではと頑なに信じていたのです。携帯電話、SIMカード、銀行口座の開設、IRDナンバーの取得など一通り済ませると何もすることの無い日々になりと苛立ちを感じていました。“ここまで来て一体何をやっているんだろう” と居ても立ってもいられなくなった私は、近くの大きなショッピングモールにCV(履歴書)をもって直談判しに行きました。こちらに住んでいる知人の方々は私の行動にびっくりしていましたが、“よし、やるぞ” と意気込んできたばかりの私は、家にじっとしていることができなかったのです。モール

の中の殆どのお店は韓国人経営者でした。行ってみるとちゃんと話を聞いてくれるし折り返し連絡しますと言われて、浮かれて家に帰った私。しかし、待っても待っても連絡は来ませんでした。その後、結局3、4回通ってCaféのクリーナーの仕事をGET。しかし、スタートは1ヶ月以上も先とのことでした。

NapierでのApple Packing

Caféのアルバイトが始まるまでの間、Napierという所でシーズナルワークをすることにしました。雑誌を見て、電話で連絡を取っただけの状態に指定された場所へ向かう。なんと適当なやり方でしょう。不安でいっぱいでしたが、迎えに来てくれたのは陽気なおばさんでした。胸をなでおろしているのも束の間、宿に到着し降ろされた所は、とても殺風景なセメント造りのバックパッカーでした。同室の子が仕事から戻らないからとそれから5時間、何も無い寒い部屋で待たされました。待っていたのは、ギシギシのベットに何も無いキッチン。せめて仕事だけはとの願いも虚しく、まるで強制収容所でした。スプーンや調味料もゼロから買い揃え、ランチボックスを持って朝早くから夕方暗くなるまでこき使われる日々。全身筋肉痛や手のアカギレに悩まされながらも4週間やり遂げました。とてもとても大変な仕事でしたが、仕事が大変な分、大切な友達ができて今ではいい思い出です。

Café

再びオークランドに戻り、Caféの仕事が始まりました。日本でイメージする静かな落ち着いた雰囲気とは違い、さすがにCafé 天国ニュージーランドです。お客さんは毎日のようにコーヒーやホットチョコレートなどを楽しみにきますし、食事もします。ケーキだけでなく、フィッシュアンドチップスもパニーニも、ステーキさえ出るので。そのCaféは、シックな外観で落ち着いた高級な雰囲気を漂わ

せていましたが、現実には戦場でした。自給は最低賃金で毎日満員御礼のこれもまた体力仕事。必死になってテーブルをふいたり、お皿やカップを片付けていると“Good Job!” “Good Girl!” と常連さんたちが声をかけてくれるのです。毎日来てくださる老人のご夫婦は、今までにこんなに働く子を見たことがないとおっしゃってくれました。やっぱり日本人だなと痛感するとともに、励まされる一瞬です。もっと英語が話せたら、より良いサービスができたのと思うことも度々ありましたが、お客さんたちは皆優しく、Cafe 以外の場所で会っても声をかけてくれました。ここで働いているときに思ったことは、“ワーホリって結局〔生活〕だなあ”ということでした。場所や言葉は違っても、働いて、買い物や洗濯をして…。日本にいるときよりも、生活していくために働くという、より現実的な感覚を覚えました。

TECSOL と J-shine ～

Café で働いているときに “折角思い切ってここまで来たのだから、何かやり遂げて帰りたい” と思い出した私の脳裏に真っ先に浮かんだのは、日本で目にしていた J-shine の資格取得でした。この時タイミングよく、フラットメイトもこの資格に関心があり、また、Napier 時代の友人も、ニュージーランドで唯一の J-shine 資格認定校である LETS に通い始めていたのです。私は早速資料請求をし、学校見学にも行きました。“学校へは行かない” と決め込んで来た私にとっては、金銭面でも大誤算でしたし、“大変だ” という情報ばかりを耳にしていたため、悩みに悩みました。今思えば、このときのフラットメイトと Napier 時代の友人がいなければ諦めていたのかもしれない。2 人とも年下ですが、自分のやりたい

ことがはっきりしていて、とても行動力があり、私にとっては尊敬できる大きな存在だったのです。TECSOL と J-shine の 6 週間コースを申し込んだ後も不安は消えませんでした。そんな時、一足早く卒業を迎えた友人の “本当に大変だったけどやってよかった” と言いきるやりきった後の表情を見ると、達成感に満ち溢れていたのです。そんな友人に再び勇気もらい、いざ入学。それから卒業までは嵐のように過ぎていきました。週 2 回のペースである Micro Teaching (模擬授業の実践テスト) は、レッスンプランを組み立て、教材を作り、授業の流れを暗記し、何度も練習して時間内にまとめ上げるといったもので、その間も普通の授業は行われています。幼児向け、小学校低・高学年初心者向け、小学校低・高学年経験者向け、phonics と呼ばれる発音の Micro Teaching を経て、最後の 1 週間には 1 か月分のレッスンプランを作り、その中から日本の小学校での担任の先生とのやり取りを考慮した Micro Teaching を LETS の先生とペアで 1 回、決められたクラスメイトとのペアで 2 回、計 3 回を 3 日連続で行いました。次の日も最終テストがあったりと最後の最後まで大忙しで、通学中も英語の歌や授業の流れを 1 人でつぶやきながら歩いたり、Micro Teaching の夢まで見る始末でした。そんな嵐のように過ぎ去った 6 週間でしたが、私は今、あのときの友人のように “やってよかった” という達成感でいっぱいです。2 日間の現地の小学校研修、励ましあい協力し合った 7 人のクラスメイトとの団結力、素敵で 2 人の先生との出逢い。本当に充実した 1 か月半を過ごすことができました。

Backpackers Exchange

今私は、Coromandel 半島にある Whitianga の Backpackers Lodge で Exchange をしています。Exchange とは、クリーナーとして毎日働く代わりに宿泊代が無料になるシステムで、New Zealand で



は精通した仕事です。ここには現在日本人6人と台湾人2人のExchange workerがいて、午前中およそ2時間かけて全ての客室の掃除をします。2種類のスプレーとたくさんの布巾を使い、キッチン、バス、トイレ、ベッドルーム、リビングルーム、窓と汗を流しながら隅々まで拭いた後、シャワーカーテンやタオル、テーブルクロス等を取り替えて掃除機とモップがけをして終了です。鏡や水道の蛇口、ゴミ箱までもピカピカにするほど徹底しています。夏の観光シーズンなので客室は満室、目の前の海から運ばれたシャワールームの砂を綺麗に取り除いたり、強い日差しの下での窓拭きは大変ですが、みんな協力して助け合っています。最初は日本人が多く懸念していましたが、お客様と話ができる機会もあるし、2人の台湾人がいてくれるお陰で毎日英語を使えます。ここのBackpackers Lodgeの環境はとても恵まれていて、たった一日2時間の仕事なので他にアルバイトをしている人が殆どですし、午後は目の前の海でシーカヤックやボディボード、釣りや素もぐりをしてムール貝を取りに行くこともでき、私は今まででここが一番好きなおとこです。双子のキウイのオーナーは、以前から勤労な日本人が大好きなようでもとてもかわいがってくださいますし、広大できれいな景色を見て、本当にここにきてよかったと毎日のように感じさせられます。

日本に帰ってしたいこと

縁あって幼児英語教育の勉強ができたので、民間の児童英会話スクールに就職できるよう活動するつもりです。そこで多くの技術を学び、いずれは自分で小さなスクールを開けたらと考えています。多くの出逢い、タイミング、自分で考え行動する力…。ニュージーランドで経験し学んだことを心の支えに、ポジティブ精神で自分の人生を作り上げて行きたいと思ひます。

ニュージーランドで季節労働



表野 夏樹

(おもての なつき)

1981年7月9日生 男性

石川県出身 元旅行会社勤務

退職、そして、ニュージーランドへ

旅行が趣味の私は、大学時代は長期休みになるたびに航空券だけを買ひ、世界の国々を回る生活でした。その流れで、就職も自然と旅行会社を選択。しかしながら、毎日無給残業の毎日で「このままでは大好きな旅行が嫌いになってしまう」と思ひ、入社3年目の末、退職を決意。もう一度旅行熱を取り戻そうと、ニュージーランドへのワーキングホリデーを決意しました。渡航先をニュージーランドにしたのは、イギリス、オーストラリア、カナダといった他のワーホリ主要国はプライベートや仕事で訪れたことがあったことと、会社の先輩からニュージーランドの美しさを聞いていたからです。現地到着後、まずは一般的な例にもれず、オークランドにて語学学校に通いました。日本での忙しい日々疲れ果てていた私は便利なシティキャンパスではなく、郊外のA I Sという学校を選択。この学校はシティからは離れますが、いわゆる「ビルキャンパス」ではなく、芝生の広がる敷地を持つ学校です。校内にはテニスコートやジムなどもあり、日本とは比較にならない、のんびりした学生生活を過ごすことができます。そして、何よりA I Sを選んだ理由は校内に学生寮があるということと、日本人が少ないということです。ここに住むことで、ヨルダンやマレーシア、中国など、他の国々からの友人を作ることができました。この学校には4週間通いました。当初は4週間でもう語学学校には通わない予定だったのですが、「も

う少し英語を学びたい」という気持ちがあり、次はオークランドシティにあるEPという学校に通うことに。また、1校目と2校目の間に住まいを学生寮からフラットへと移しました。他人と同居するのは初めての経験だったので、フラット探しは慎重に行いました。自分でも多すぎるとは思いましたが計7件のフラットを下見し、中で一番と感じたものを選択しました。フラットはシティから2ステージ離れたグリーンレーンという場所にあり、学校まではバスで通わなければなりませんでしたが、街の喧騒から離れた静かな住宅街で居心地は最高でした。また、転校する狭間の時期に日本の会社のCM撮影の仕事がタウポであり、それに荷物持ちとしてアルバイト参加することができました。約1週間現地に泊り込みでこき使われましたが、なかなか楽しい経験でした。ニュージーランドでは映画やCMの撮影がちょくちょくあるため、運が良ければ、そのような仕事にありつけるかもしれません。さて、2校目のEPはAISとはうって変わり、日本人ばかりの学校ではあったのですが、先生の質も良く、計7週間通学しました。2校目での最大の収穫は、先生からイングリッシュ・ネームをもらったことです。私の名前は「Natsuki (ナツキ)」なのでそのスペルをもじって「Nathan (ネイサン)」というのがそれです。日本人は韓国人や中国人と比べ英語名を持ちませんが、この名前のお陰でその後のニュージーランド生活で他国人とより親密になりやすくなりました。

ネイピアで初の季節労働

オークランドでの勉強生活が終わると、用意したお金が既に底をつきてしまったため、北島のネイピアという町で「アップルパッキング」の仕事をすることに。日本食レストランやお土産屋さんの仕事も考えたのですが、「せっかくニュージーにいるのだから、日本ではしないようなことをしよう」と思ったのです。そのりんご工場が私の季節労働生活の始ま

りでした。仕事内容はベルトコンベアに乗ってかなりのスピードで流れて来るりんごを、こちらも負けずに猛スピードで仕分けしながら、ひたすら箱詰めする仕事です。想像していたよりかなりハードな仕事で、最初の3日間くらいは食欲も出ないくらいでした。この工場では一日朝7時～夕方5時まで10時間、週6日働きました。無料でもらえるりんごだけが栄養源でした。当初は6週間の予定でしたが、次第に仕事にも慣れ、仲間もでき、日々が楽しくなってきたため、最後の週別れが惜しくて仕方ありませんでした。結局「何も急いで去ることはないんだ」と思い、2週間仕事を延長し、結局ネイピアには8週間滞在しました。働いてばかりではありましたが、ネイピアの街並みは美しく、きれいなビーチが町の側にあり、ここは私の特にお気に入りの町となりました。

TOEIC受験

ネイピアの後は、ウェリントン、ネルソンなどを旅行した後、クライストチャーチでTOEICの試験を受験しました。1年やそこらで英語は簡単には流暢にならないとは思いますが、日本に帰国したら周囲はそう判断しがちです。だからこそ、英語力は必要だという考えがあったためです。結果は、710点と今ひとつのものでしたが、帰国後の受験も視野に入れて勉強できたことと、ハードの労働生活の日々に比べてはのんびりした毎日を過ごすことができたのは良かったのではないかと思います。

季節労働にカムバック

次なる地はブレナム。ビンヤード（ブドウ農園）の仕事です。ひたすらブドウの木を切り続ける仕事で、これまた非常にきつかった。仕事後は手が痛くてまともに物も握れないほどでした。ここでの給料は出来高制のため、初心者の方はスピードが遅く、大した収入にはなりません。しかも屋外の仕事のため、雨だと仕事がなく、無収入になります。結局、あま

り稼げないまま、ネルソンでの仕事の情報があつたため、移動することにしました。このブレナムでの仕事が一番辛く悔しい時期でした。ネルソンでは、

「SEALOAD」という魚工場勤務。仕事内容はこれまたベルトコンベアで流れてくる魚の皮を、延々と



切り続ける仕事です。正直、魚臭かったですが、でも、日本ではやらない経験なのでそれはそれで面白かったです。

他に日本人労働者は一人もいませんでしたので、完全英語環境でした。この会社は高給だった上に、午後3時～11時までの仕事に加え、午前中はバックパッカーでエクステンジの仕事もやっていたため、この時期は本当にお金が貯まりました。

約10ヶ月を振り返ってみて

これから北島に戻り、最後の旅行をしながら、オークランドへ戻り帰国します。気づけば、働いてばかりの毎日でしたが、振り返ってみると本当に充実した日々でした。日本人と離れた生活をしていたためか、他国の友人がたくさんでき、私のかけがえのない財産となりました。このワーキングホリデーで、私の価値観は大きく変化しました。帰国後は毎日ネクタイを締めた生活ではなく、ニュージーランドのようにのんびりと暮らせないものかなと考えてしまいます。

ニュージーランド生活ヒント

まずは英語

英語が話せないと仕事が見つかりません。また、日本人以外の友達が出来ず、海外であるにもかかわらず日本の生活そのものという結果になります。最悪の場合には住むところも見つからないということになるかもしれません。このような状況に陥って初めて英語の重要性を実感するかと思います。ただ海外に住めば自然に英語が話せるようになるというのは神話ですので、英語に自信のない方は、最初に語学学校に通うことをお勧めいたします。およそ3ヶ月ぐらいの受講期間で、基本的な日常会話が出来ようになります。極力、英語を話さなければならない状況下に入り、まめに辞書をひくこと意外に英語の上達法はありませんのでがんばりましょう。ワーキングホリデー生活の成功のいかんは、あなたの英語力によります。

何を持っていく

電子辞書とデジカメ、携帯電話？

デジカメに関しては、至る所にデジカメプリンターがあるのでアルバムも



手軽に作成できます。ニュージーランドのプラグのかたちは、日本のとは違うので日本から持ってきた電気製品は、変換プラグを装着する必要があります。変換プラグは、安く何処でも買い求めることが出来ます。また、デジカメの充電器の対応電圧は、海外どこでも使えるようニュージーランドの電圧240Vまでの仕様可能範囲になっています。日本製のヘアードライヤーは、海外向けでない限り240Vに対応していませんので変圧器が必要になります。変圧器の購入を考慮した場合、ヘアードライヤーはこの国

でも安いのでわざわざ日本から持ってくる必要はないでしょう。日本から持ってきた携帯電話をこの国で使用すると莫大な海外ローミング料金を請求されます。また、レンタル会社のサービスもありますが、一番安く済む方法は、この国の携帯電話機の購入です。安い機種はNZ\$100 弱で売られており、SIMカード(\$35) とプリペイドカードを購入するだけで利用で出来ます。プリペイド電話は、日本のように規制がなく誰でもその場で利用できます。

衣料品

この国も殆どが中国製ですが断然、日本のほうが安く品も良い物があるのでニュージーランドで買い求めることは、お勧めいたしません。ニュージーランド人は、着るものには拘らないと言う国民性ですので、高価なブランド品をあえて持ってくる必要はありません。

コンタクトレンズ用品

日本で売られているアメリカ大手のオールインワンタイプのコンタクトレンズ保存液は、こちらでも売られていますので、日本からわざわざ持ってくる必要はないでしょう。

コンピュータ

ノートブックコンピュータは、メールだけの使用目的で他に特別な目的がない限り持ってくる必要はないでしょう。至るところにあるネットカフェで日本語環境のコンピュータを利用出来ます。コンピュータを持って来られる方は、日本同様にニュージーランドでもスターバックスなどの大手カフェチェーン店で無線LANを利用できます。また、殆どの一般家庭、及びフラットメイトを募集するようなところは、ブロードバンドでLAN回線を利用出来ます。

何処に住む？

ワーホリの殆どの方は、国際線の空港があるオークランドかクライストチャーチにまずは拠点を置きます。オークランドは仕事を見つけやすいという理由から人気があり、ここ拠点として仕事をした後、最後に旅行をして帰国するか、仕事をした後、旅行に出て再び帰ってきて仕事に就くというパターンがあります。日本と同様に、小さい町に行けば行くほど仕事のチャンスがなくなります。クライストチャーチの人口40万弱は長野市、オークランド140万人は福岡市の人口と同じくらいです。ワーホリの殆どの方は、最終的にシェア（一軒やまたは、アパートでベッドルームは個室、キッチンとバスルームを他の居住者と共有する）という一番安い賃貸方法に落ち着きます。共同生活ではなくアパートに一人で住む場合は、ボンドと呼ばれる敷金（通常は2週間分の家賃）を貸主ではなく Department of Building and Housing という政府機関に預ける必要があります。この手続きは貸主がしなければなりませんので、実際には貸主にお金を支払うことになります。これは、物件に損害、損傷を与えてない限り全額返金をされなければなりません。

オークランド Auckland



この国の経済、金融の中心地であるオークランドは、北島の北部に位置した人口140万人のニュー

ジーランド最大の都市です。オークランドは、二つの湾、マヌカウ湾とワイテマタ湾に囲まれた地峡にあり、帆の町「The City of Sails」と呼ばれるほどに湾にはたくさんのヨットを見かけます。世界最高峰のヨットレース、アメリカズ・カップの開催地として二度も選ばれたことはあまりにも有名な話。緑の多いこの町には、至る所に火山跡から出来た大小の丘があり、数多くあるゴルフ場やダウン・タ

ウンのカジノなど自然と都会が同時に楽しめるユニークな都市と言えるでしょう。ニュージーランドは長年に渡り外国人移民を受け入れてきた為、市内のレストランでは、フランス料理、イタリア料理、タイ料理、日本料理など多国籍の料理が楽しめるのもこの町の魅力の一つです。学校はオークランド大学をはじめ、専門学校、英語学校など数多くあり、そこで学ぶ日本人生徒の数も他の町と比べると多くなります。都会であることから仕事は探し安くなりますが、反面物価は高目です。気候は一年を通して暖かく、夏に気温が 30 度を越すことは稀にしかなく乾燥した日が続きます。冬は逆に、雨の日が多く気温は氷点下になることはありません。

春 (9-11 月)

平均最高気温 18℃ 平均最低気温 11℃

夏 (12-2 月)

平均最高気温 24℃ 平均最低気温 12℃

秋 (3-5 月)

平均最高気温 20℃ 平均最低気温 13℃

冬 (6-8 月)

平均最高気温 15℃ 平均最低気温 9℃

年間日照時間 2021 時間

年間平均降水量 1301mm

クライストチャーチ Christchurch



南島最大の都市クライストチャーチは、南島中部の東海岸側に広がるカンタベリー平野に位置する人口およそ 36 万人の都市です。初期のイギリス人移民が理想のイギリスを築き上げようとして、この地にやってきたのがこの町の始まりです。町は 19 世紀に建てられた大聖堂を中心に広がり、街中を流れるエイボン川、ハグレー公園などイギリス的な光景にぶつかります。住宅地に入ると各家の庭の美しさから、何故、この町が「The Garden City」と呼ば

れているのか納得のいくことと思います。オークランドの国際色豊かなイメージに対して、ここはイギリス色の強い美しい町ですが、街中にはモダンでおしゃれなカフェやレストランが並び、コンパクトで生活のしやすさから留学生達に人気があります。カンタベリー大学をはじめポリテクニク、英語学校など数多くの学校が運営されています。一年を通して雨量が少なく、夏に気温が 30 度を超えることは殆どなく、冬は市内に雪が降ることはありません。

7 月平均日中最高気温 10℃

平均日中最低気温 1℃

1 月平均日中最高気温 21℃

平均日中最低気温 12℃

年間最高気温 32℃ 年間最低気温 -4℃

年平均日照時間 約 2,040 時間

平均降水日数 年間約 87 日